

# 高梁の文化財②

## 山城に残る唯一の天守

〈国指定重要文化財備中松山城天守〉



南から見た天守

標高430mの臥牛山上にそびえる備中松山城の天守は、山城に残る唯一の天守として国の重要文化財に指定されています。

この天守は二層二階で、高さは11mと現存する天守の中では最小ですが、間近に立つとさほど小さく感じられません。その理由は、大きく開いた出窓に差しかけられた小屋根が、二層の屋根と重なり合って重厚感を演出していること、また、複雑に折れ曲がった壁が建物の奥行きを生み出していることによるでしょう。

階段を上がつて一階に入ると16畳の大広間があり、その奥には城郭では珍しく囲炉裏が切られています。また、左手には一段高い装束の間が設けられ、かつては厠も備わっていたといえます。山上に築かれたこの城には御殿にあたる建物がなく、有事の際には藩主の御座所にあてるため、このように実用的なつくりとなっています。

その一方で、漆喰が塗られた土壁の厚さは7cmしかなく、しかも内壁の板との間は空洞になっていて、とうてい実戦に耐えるものではありません。これはこの天守が、関ヶ原の



一階に設けられた囲炉裏

戦いから80年余りを経た太平の時代につくられたことと深くかわっています。

江戸時代を通じて、城には常時2・3人の番士が詰めるのみで、諸人の立ち入りは厳しく制限されていました。領民はもちろん藩士たちにとっても、城は備中松山藩の権威の象徴として、城下から遠く仰ぎ見る存在だったのです。そして今では、高梁の歴史と文化を伝える役割を担い、各地から多くの見学者を集めています。

(文・社会教育課文化係長 亀山行雄)

編集と発行(毎月15日発行)高梁市総務部企画課

〒716-8501 岡山県高梁市松原通2043 電話0866(21)0210 ホームページアドレス <http://www.city.takahashi.okayama.jp/>



この印刷の一部には水質保全に有効な水なし印刷方式を採用しています。



環境にやさしい大豆油インキを使用しています。



古紙パルプ配合率100%再生紙を使用しています。